

■『人・もの・地域』と出会い、ふれあい、高め合おう！（草津第二小学校）

1 【活動の趣旨】

本校の児童の約9割がマンションに居住し核家族で生活しており、様々な世代の方とのつながりをもつことが難しい。そこで学習の中で、地域の方や様々な立場の方の話を聞いたり交流したりすることで、地域とつながり、愛着をもち、進んで地域と関わろうとする子どもの育成を目指している。

2 【特徴的な活動内容】

○「きつね踊りを体験しよう」

本校の近くには、1000年以上前に創祀された「小汐井神社」があり、昔から収穫を祝い、感謝をささげる「きつね踊り」が伝わっている。4年生の社会科では、「きつね踊り保存会」のみなさんに、由来や歴史、踊り方を教えていただき、「きつね踊り」を体験した。希望する子どもたちは、神社で地域の方とさらに交流を深めることができた。

○「マイドリーム」

卒業を前にした6年生が様々な職業の方にお話を聞き、自分の夢について考える学習であり、今年度は保護者からの紹介で、難病によって寝たきりの生活を送りながらも社会福祉士として活動されている方からお話を聞いた。在宅生活のため「O r i h i m e」という分身ロボットを通して、自分の可能性を信じることや夢をもつことの大切さについて聞き、自分の夢や生き方について考えることができた。



【きつね踊り】



【マイドリーム】

3 【実施に当たっての工夫】

6年「マイドリーム」では、事前にメールでやりとりを重ねたり、実際に「O r i h i m e」をボランティアの方に連れて来ていただいて打ち合わせをすることで、学校側の意図と話し手の思いをつなげ、子どもの心に響く話をしていただけるように工夫した。

4年「きつね踊り」では、地域の方に踊りの由来を聞き、実際に使うお面や衣装を見せていただくことで、子どもたちは興味を持って主体的に体験することができた。

4 【事業の成果】

自分たちの学びと、地域の様々な人・もの・ことがらとの関わりを通して、地域に親しみをもつことができた。「マイドリーム」では、子どもたちが自分ごととして「夢」をとらえ、自身を振り返ったり、自分の気持ちを見つめ直したりすることができた。「きつね踊りを体験しよう」では、コロナ禍を経て昨年からの学習を復活させたことで、地域の方との新たなつながりができた。

5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

地域コーディネーターと地域協働合校担当、学年担当が役割分担をすることで、スムーズに連絡や調整を行うことができた。今後は地域の方に教えていただくだけでなく、子どもたちからも発信できるような学習や活動を考えていきたい。